

平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

T : 発見！ミュージアムゼミ

連携機関：県立博物館

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室

【趣旨】博物館職員が専門の分野について分かり易く解説する講座です。

回	期日	テーマ	講師	参加者数
1	5月15日 (金)	「石斧のある世界」	主査(兼)学芸主事 考古担当 吉川 耕太郎 氏	20
2	7月17日 (金)	「駆け足で見る秋田の自然」	主任学芸主事(兼)展示・資料班長 生物担当 船木 信一 氏	12
3	9月25日 (金)	「秋田の絶滅のおそれのある生物」	主任学芸主事(兼)普及・広報班長 生物担当 梅津 一史 氏	15
4	10月16日 (金)	ぎこぶん 「擬古文で読む菅江真澄」	学芸主事 真澄担当 松山 修 氏	30
5	10月23日 (金)			31
6	10月30日 (金)			28
7	12月11日 (金)	「秋田の民俗」	主査(兼)学芸主事 民俗担当 丸谷 仁美 氏	15
合計				151名

それぞれの専門分野について詳しくお話を聞くことができました。ここでは3回目の講座について報告します。

秋田県版レッドデータブックの作成にも活躍しておられるのが秋田県立博物館の昆虫専門家、梅津一史氏です。ここ十数年の間に見られなくなった植物や昆虫の具体例を挙げ、今まさに何が問題なのかをお話してくださいました。

生態系を保護するには白神山地のように人間が手を付けられない方がよいものもあれば、里山の雑木林や草原のように人間が手を付けること（下草刈りによる雑木林の保護や焼山による草原保護など）が必要なものもあること、生物種を特定しない保護こそが重要になってきていることなどを既に絶滅したと思われる植物・昆虫を中心にお話してくださいました。しかし何よりも重要なことは、「将来の専門家や調査従事者などの人材の問題があるということでしょう。自分が引退した後、それに続く人がいるのだろうか。例えば30年後に調査しようと思っても、できるのだろうか」と言う梅津氏の言葉に、「続く人、現れよ！」そう願うばかりでした。

